



日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (DC会館)
鉄 電 千葉 2 9 3 5 ・ 2 9 3 9 番
公 衆 043 (222) 7207 / FAX. 043 (224) 7197
ホームページ http://www.dorc-chiba.org/
Eメール dorcchiba@www.dorcchiba.org
2001.9.27 No. 5376

検修・構内の全面的な外注化阻止へ 9・19 総決起集会を開催

九月十九日、車両技術分科は乗務員分科と共催で検修・構内外注化反対の総決起集会を開催した。集会は各支部代表をはじめとして会場を一杯にする熱気あふれる中で開催された。高橋副会長の開会あいさつで始まり、星事務長の司会で進められた。

来賓として冒頭あいさつに起った本中部野委員長は、『いま、世界は混沌としている。九・一一のゲリラをどう見るのか。一切の責任は米帝にある。報復戦争は第三次世界大戦を起こしかねない。九・一一で世界は大きくかわった。大恐慌前夜と言える。アメリカで日本で株価が大暴落している。プッシュは経済

危機を戦争で解決しようとしている。どうしたら世界の人々が生きていけるのか、労働者が団結して搾取のない世界にしたいといけない。二つ目の問題はJRの問題だ。移行から一三年、今第二の分割・民営化が来ている。それがニューフロンティア二一だ。外注化は単なる合理化ではない。今までは合理化されても必要最小限は直営だった。会社の根本的な在り方が変わる。終身雇用制も変わる。東労組、国労もほとんどのんでいる。反対しているのは動労千葉だけだ。困難な情勢で勝てる条件は「シニア制度」を前提にしているからである。四〇年以上働いてき

佐藤会長基調提起要旨

外注化をめぐる動きでは本社提案を受けて、JR東労組が3月に裏切妥結。そして各支社で提案が行なわれているが、千葉支社ではまだ提案できる状況にないことを明らかにした。実際、東京横浜支社では6月に提案されており、この秋にも実施されようとしている。高崎支社では9月20日に提案が予定されている。しかし、その数も少ないものであり、具体的な確信が会社になんか物語っている。一方、設備部門の外注化は東日本全体で3312名、千葉支社では300名の提案がされており、その3分の2が出向だといわれている。また、この間申し入れを行い、団交を行ってきたが会社は具体的な回答をできないでいる。この外注化は第二の分割・民営化といわれるニューフロンティア21による一万人削減計画の中心的な攻撃である。ニューフロンティア21は、鉄道事業固有の技術力を放棄し、安全の崩壊に直結するものだ。また、これはシニア制度と一体の組織攻撃でもある。最後に検修職場からの怒りの総決起で必ず、破綻に追い込める。

シニア制度粉碎、当該組合員を守りぬき、諸悪の根源、JR結託体制粉碎、JR総連解体、外注化阻止へ車両技術分科は総決起してたたかいたいぬこう。

た労働者が安い賃金で働かされ、外注化の手先に使われる悪らつ極まりない攻撃である。現在、千葉支社は、提案できないでいる。六〇才以上の労働者を確保できないからだ。敵の悪逆非道の所に弱点がある。本質を見極めて職場を死守しよう。動労千葉が本当の意味で多数派を形成しよう。大会で新しい執行部をみんなの力で創ろう。車両技術分科の体制をしっかりととして闘っていこう」と全体に訴えた。

続いて、橋本乗務員分科会長、三代川事務分科会長からあいさつを受けたのち、佐藤車両技術分科会長が基調報告を行なった(要旨別掲)。

基調報告を受けて、各支部代表と支部技術分科の代表から決意表明を受け、最後に佐藤会長の団結カンパニーで終了した。

橋本乗務員分科会長あいさつ

乗務員分科会も18日に役員会を開催し、外注化反対にたちあがる。第一に外注化攻撃はシニア協定により労働者をあおり、労組破壊攻撃である。第二に労働者を半数以下の体制にする。働く場所がなくなる。第三に安全を破壊する。長期展望がない。技術力は一朝一夕に獲得できない。安全運行の責任を根底的に破壊する。外注化の絶対阻止へ長期的に乗務員分科も闘う。

三代川事務分科会長あいさつ

外注化されると事務の仕事もなくなる。事務センターが作られればわれわれは行くところがなくなる。事務分科も外注化阻止へ闘う。

